

## 福井県嶺北地域公共交通活性化協議会設立総会 議事録

日 時：令和4年4月15日（金）14：00～15：30

場 所：福井県国際交流会館 第1・2会議室

### 1 開会

### 2 あいさつ

福井県 藤丸新幹線・まちづくり対策監

### 3 議事

- (1) 福井県嶺北地域公共交通活性化協議会委員について
  - ・事務局より資料説明
  - ・異議なし、原案の通り承認
- (2) 福井県嶺北地域公共交通活性化協議会規約について
  - ・事務局より資料説明
  - ・異議なし、原案の通り承認
- (3) 会長の選出
  - ・川本義海委員を選出
- (4) 監事の選出
  - ・乾川和則委員および杉本恭伸委員を選出
- (5) 福井県嶺北地域公共交通活性化協議会財務規定（案）について
  - ・事務局より資料説明
  - ・異議なし、原案の通り承認
- (6) 令和4年度事業計画（案）および収支計画（案）について
  - ・事務局より資料説明
  - ・異議なし、原案の通り承認

### 4 協議事項

#### 事務局

- ・「福井県嶺北地域公共交通計画の策定について」説明

#### 会長

- ・せっかく皆さんお集まりいただいているので、問題認識や議論したいことなどお聞かせいただきたい。まず、自治体の方から願います。

#### 福井市

- ・福井市のほうでは昨年第2次福井市都市交通戦略を定めた。まちづくりと交通という課題について議論した。ネットワークと拠点というところでいかに拠点をネットワークに繋げていくかということが重要と意見をいただいている。また、えちぜん鉄道の地域交通計画

等を進めている。今年には福井鉄道の地域交通計画を定める年である。並行在来線の方もおられるが、昨年経営計画を定められ、鉄道系については今後どういったことで、利用促進に取り組んでいくかが徐々に明らかになってきたかと思う。そういった中で、福井市としては、地域交通計画を定めていくということで、今年、来年と進めていく。こういった中で、幹線系を嶺北一円でどういう風にしっかり走らせながらフィーダー交通に繋げるかという議論が進むのはありがたい。ここでしっかり議論させていただいて、今後の行政の進め方の参考にさせていただく。

#### 大野市

- ・監事を務めさせていただき、よろしく願います。大野市では現在、都市マスタープランの改定作業を進めており、向こう20年間のプランを練っている。その中でも拠点づくりとネットワークのつなぎをどうするかがかなりネックとなっている。高齢化にも輪をかけているということであるが、いい案がでてきていない。8号線の大きな軸から大野市はどうしても外れたところにある。その中で、JRの越美北線が大きな背骨となっており、なくてはならない。生命線と考えている中で、マスタープランの大きい組み立てを進めているところである。広域バス等の勝山大野ラインが動きかけたところで、えちぜん鉄道との連携で、奥越地域にお客さんを誘導できるかということがこの計画に盛り込まれるとありがたい。

#### 勝山市

- ・勝山市は地域公共交通計画を策定した。その中で課題として、市のコミュニティバスを走らせているが、少子高齢化の影響もあり、利用者が伸びない。お年寄りが免許返納をしてもいる中で、高齢者が好きな時間に行きたいところに行ける。そういった当たり前の生活を確保していかなければと考えている。今まで、定時定路線で走らせていたバスをこれからは新しい公共交通体系、例えばデマンドを主流としてやっていく、また地域の力を借りて自家用有償も視野に入れながら、やっていきたい。

生活面のほかに観光の産業化といったことを推進している。北陸新幹線が開業するとえちぜん鉄道を使って、勝山駅の方へ観光客やビジネスの方が入ってくると考えている。その中で、例えば勝山駅から宿泊施設までを運行するバス、コミュニティバスは夜間の運行がないため、それをどのようにカバーするか今後課題となってくると考えている。タクシー業者も一生懸命やっているが、業界として高齢化の波があり、運転手の確保が困難となっている。交通の空白時間をどうやって埋めていくか、新しい公共交通の考え方を視野に入れながら公共交通計画の中で、今後の政策を展開していきたいと考えている。

また、このような場で皆さんのお知恵を借りながら勝山市で生かせるところがないかしっかり検証しながらやっていきたい。

#### 鯖江市

- ・鯖江市では、福井鉄道を盛り上げていきたいと考えている。2年後に並行在来線ハピラインができるが、その中で、鯖江駅を中心に地域の足の利便性をいかに図っていくかを考えているところである。鯖江市を含め丹南地域にはかなりの地場産業があるので、鯖江駅を核

にして観光産業の一つの拠点の施設とならないか、鯖江駅の改修を見据えた駅の整備計画に取り組んでいきたいと考えている。

また、今年度コミュニティバスのダイヤ改正をしたが、こういった中で、地域公共交通計画の中で鯖江市民の利便性を図っていけるように他の自治体や団体と一緒に考えていきたい。

#### あわら市

- ・令和6年春の北陸新幹線芦原温泉駅開業に向け、福井県の北の玄関口としての役割を果たすことが重要である。観光客も増えるのではないかと大きな期待をしている。昨年、5月に西口立体駐車場が完成し、300台停められることとなっている。12月には、西口賑わい施設「アフレア」の建設工事が始まっている。4月20日からは、西口交通広場の利用が、開始となる。このように駅周辺の整備が進んでいる状況ではある。地域交通の確保に向けた取り組みとしては、平成24年度から乗合タクシーを活用したデマンド交通を実施している。大変生活に密着しており利用者が増えている状況である。今は限定してあわら市内となっているが、坂井市に隣接していることから、広域にまたがる利用を希望される人もある。そういった住民のニーズに応えられるような体制がこのネットワークの中でできるとよいと考えている。

#### 越前市

- ・令和6年春の北陸新幹線の開業で、新駅の設置ということで、その新駅から現在のJR駅や、それぞれの観光地等へ結ぶための二次交通が一つの課題と考えている。時代の流れからコロナなどによる観光客の小グループ化を考えていくと、現実的にはタクシーやレンタカーが基軸になっていくという考え方を持っている。来月5月にJR武生駅・鯖江駅で特急を利用される方にインタビュー形式でアンケート調査を実施し、これからの対応策を検討していきたいと考えている。タクシーだが、どうしても今は、運転手の成り手が少ないという声をお聞きしている。「迎車でGO」で500円のお支払いで観光地の方へご案内させていただくというシステムをやっている。そういったものが使い勝手の良いものなのかどうかを検証しながら、今後やっていく必要がある。あと、レンタカーは、どうしても観光客は、例えば本市の駅から乗車し、越前海岸でカニなど食されてから、あわら温泉へ宿泊されると想定される場合、そこで車を降りられて、あわら温泉駅から新幹線で帰られるといった、乗るところと降りるところが別になるようなレンタカーが、一つ課題として挙がってくるのではないかと考えている。
- いろいろな課題等があるので、こういった会議の中で、皆さんのお知恵を拝借しながら解決していけたらと考えている。

#### 坂井市

- ・令和3年度に地域公共交通計画を策定し、事業を進めている。えちぜん鉄道、路線バス、並行在来線、コミュニティバス、デマンド交通も実証実験を継続しており、少しでも利便性が図れるよう実施している。点・線・面の視点で、観光地を結ぶ、また日常生活の利便性が図れるように現在取り組んでいる。資料13ページにあるMaaSについても広域的な視点で取り組む必要があるので、その点で本市も興味を持っている。この場で皆さんと協議しな

がら、乗ってワクワクするような交通体系にしたらいと考えている。

#### 永平寺町

- ・現在、自動走行と資料12ページにございましたとおり近助タクシー、デマンドタクシー、コミュニティバスで、3つの事業による町内を運行する交通体系をとっている。その中で、近助タクシーについては、住民の皆様の協力のもと、ひとつの地区において本格運用をさせていただいている。現在は2地区について試験運用をさせていただいている。本年度に本格運用に移る計画をしている。調整が必要なところとしては、町の中にコミュニティバスなどいろいろと走っている。その近助タクシーやデマンドタクシーを運行させていくにあたり、住民の方、利用される方のニーズと事業者の皆様に担っていただいていたところの調整がでてくるため、そういうところに町も取り組んでいきたいと考えている。

#### 池田町

- ・主に JR 武生駅の方へは福井鉄道バスの協力をいただきながら、また JR 福井駅の方へは、自家用有償のバスを運行して、交通網が滞らないよう設計している。また、町内にもコミュニティバスを走らせており、利用者は段々と減少はしているが、ダイヤ改正を行い、なるべく利用者が減らないよう努めている。地域公共交通計画をしっかりと練って、また、利用者の増加を図っていききたいと考えている。

#### 南越前町

- ・運転免許を自主返納した方について、住民バスを無料で乗車可能とするなどの取組みを行っている。利用者は年々減少傾向にある。その中で、今年度10月を目指し、既存の住民バス運行とは別に既定の時刻表や路線を定めない、フルデマンド交通の実証実験を町内全域で実施する計画を行っている。実証実験にあわせて利用者へのアンケート調査をもとに、需要の掘り起こしや公共交通計画への意見の反映、住民バスの利便性の向上を図りたいと考えている。現在、住民バスを利用いただいている方やそうでない方もあわせて、できるかぎり多くの方に利用してもらえよう、福祉部門などとも協力しながら、住民に前向きに取り組んでもらえよう、積極的な投げかけを行っていききたいと考えている。

#### 越前町

- ・令和3年4月からの5か年で地域公共交通計画を策定している。その関連で、今年の4月から従来のコミュニティバス5路線を廃止して、デマンドタクシーを新たに導入し、ドアトゥードアで利便の向上を目指している。路線バスについても、赤字路線というか、どうしても国、県、町の補助金によって運行を継続している状況もある。今後は、持続的な運行というものを、いかにやっていくかということを当協議会等で議論させていただきながらより良い施策を目指していければと考えている。

#### 福井県

- ・市町の方からいろいろ積極的なご意見をいただき、心強く感じたところである。デマンドタクシー、デマンドバスなど工夫を凝らした地域住民の方の足を守ろうという工夫が

随所にみられるということで、そういう意味ではすごく心強く感じた。いろんな取組みについてこういう機会があるので、情報共有しながらお互いより良いものにしていければと考える。我々も勉強させていただいて、応援していくところはしっかり応援していきたいと考える。

## 中部運輸局

- ・市町さん、県さんの方からいろいろとコメントいただいたところで、被るところもあるかもしれないが、令和2年度からのコロナ禍により、交通というものが大きい影響を受ける状況が非常に長く続いている。その中で、交通事業者さん、鉄道もバスもタクシーも非常に影響を受けており、飲食店等ほかにも苦しい業界もある中で、県を筆頭に各市町含め公共交通に関して、直接、間接と多様な支援をしていただいている。その点について、感謝している。また、この状況はまだしばらく続くかと思うので、引き続き状況にあった支援というものをいただければと考えている。

地域間幹線系統というバスの話が、県さんの資料で紹介があったが、福井県内の広域バスについても、非常に厳しい状況が続いている。福井県内の地域間幹線系統は、24系統となる。国の補助を受けるためには一定の輸送量、実際にお客さんに使っていただいている路線であるということが要件となっている。24系統のうち10系統と半分近くが、要件を本来の基準であれば満たさない系統になっており、令和2年度、3年度と補正予算で要件緩和をするということで、国としても引き続き支援をさせていただいている。一方、コロナ禍で、お客さんが元の100%に戻らないかもしれないということが言われている中で、我々としても要件を満たさない路線をいつまで支援できるかなかなかわからない。いかに必要な路線を残していくかという観点で、維持するだけでなくどんどん積極的に、乗っていただく、利用促進をするという観点で広域の取組みの中で、できることを確認していくことが必要と考える。また、支援ということで国の支援のほか、県や市町も支援いただいている中で、サステナブルな仕組み、国、県、市町が一体となった維持のための仕組みが必要なのだと考えている。福井県に限って言うと、北陸新幹線敦賀開業が近い時期に予定されており、新幹線や観光も非常に重要であるが、一過性・イベント的な利用だけでは、地域交通は維持できないところがあるので、どうやって日常利用を増やしていくかという観点が必要。そういった中で、まちづくりや観光あるいは福祉という観点でも、公共交通を使ってお出かけをして現地で歩くのは、自家用車で家から目的地まで行って、目的だけ達して帰ってくるというよりも、より豊かな人生という意味でも重要かと考える。県計画では、単なる各自治体の施策紹介に留まらずにしっかりしたKPIを設定して、そのための実行策というものを書いていけるような計画にさせていただくとよいのではないかと考えている。

## JR西日本

- ・先ほどから話のあった人口減少や福井県は車社会が進展していると資料にもあったが、公共交通を取り巻く環境というのは、非常に従来より厳しいものとなっている。そこにきてコロナ禍ということで、私どもだけではなく本日ご参加の各事業者様も厳しい状況にある。こうした環境の中で住民や県外から来られる方々を含めて、ニーズを掴んだ、まちづくりの計画ともあった、持続可能な交通をつくっていくことが大事だと考えている。これまで

路線や各市町単位で公共交通計画をたてられたのが多いということだったが、こうした嶺北全体で考えるというのは良いことだと考えている。まずは、現状把握とニーズの把握からしっかりやって、エリア全体として持続可能な計画となればと考えている。先ほど、対策監から3つの検討の視点の説明があったが、新幹線各駅からの二次交通の整備が触れられていた。新幹線と連携してビジネスが向上して、新幹線駅の周辺だけでなく嶺北全体に効果が広まっていくように取り組みたいと考えている。

#### 並行在来線準備

- ・先月末に新しい会社名「ハピラインふくい」と内定させていただいた。7月には正式会社としてスタートして、あと2年をきったが、JR西日本さんから伝統ある北陸線をしっかりと県民の皆様方に密着した鉄道となるよう準備をしていきたいと考えている。当社は、昨年10月に経営計画を策定した。そういった紹介を含め、昨年の12月から今年の3月にかけて沿線市町の皆様方にご協力をいただきながら、沿線7市町の11会場で意見交換をさせていただいた。そのときに一番意見が多かったのは、やはり鉄道なので、乗りやすいダイヤの設定をしてほしいということ。具体的に言うと、今までは特急列車は、1日に約80本走っていたが、それがなくなるということで、これからは、電車の合間があるので、朝夕また日中の増便を行うとか、朝夕は例えば福井・敦賀間に快速電車を走らせて速達性を高めるといった県民目線で、ダイヤを組んでほしいとご要望があった。それと、もう1つ大事なのは、新幹線、特急、それからえちぜん鉄道さんや福井鉄道さん、バスといろいろあるが、こういった交通機関が独自に考えているダイヤではなく、みんなが共有しあって、なるべくお客様方に乗り継ぎをスムーズにしてあげると。乗り継ぎにストレスが溜まるとみんな離れていくので、新幹線、特急、並行在来線、えち鉄さん、福鉄さん、そして各駅からのバスについて、いかに乗り継ぎをスムーズにするか、しっかりと連携・充実するかが大事だろうとあった。さきほどからもご意見ありますように、駅というのは電車に乗り降りするだけではなくて、昔あった賑わいなど、そこで交流し集い、皆さんで賑やかになる場所であって初めて拠点となるし、弊社の利用やイベント等もできて、線をつながるかということになろうかと思うので、そういった意味合いで、沿線市町の方々としっかりと協力をさせていただきながら、全体で公共交通がうまくいくように我々どももしっかりと頑張りたいと考えている。

#### 福井鉄道

- ・今回、福井県の嶺北地域公共交通計画ということで、先ほどご指摘のあった3点を検討の視点とするというご指摘があった。まさに、非常に大事なポイントを3点突いていると理解している。持続可能な交通ネットワーク、福井・敦賀間の新幹線の延伸に伴う二次交通の整備、公共交通で移動を楽しめる仕掛けづくり、というところであるが、どういうキャッチフレーズをこれからいったらいいのか、と考えていた。乗って楽しいというのはすごく大事なのだが、降りても楽しいというのがすごく大事なんだろうと考える。さきほどから、まちづくりの観点も大事だとご指摘が続いていたが、目的地となるような楽しいまちがあれば公共交通で皆さん移動するというのが当然ある。乗って楽しい公共交通というのは、マナーや乗り継ぎ、ダイヤとか、こういうことは我々交通事業者が積極的にかかわっていか

なければいけない。降りても楽しいまちづくりは、我々の力だけではなかなかできないので、業者の皆さんとしっかり協力しながら、この計画の策定あるいは計画の実行ということを進めていきたいと考えている。

#### えちぜん鉄道

- ・えちぜん鉄道は、生活関連社会資本として位置づけられており、先ほど話のあった地域公共交通計画の中でも、沿線市町および県、そして国の行政支援がしっかりと確保されている、全国でも先進的な取り組みができていく鉄道である。そういうような中で、日ごろ電車に乗っているわけだが、現場の立場から申し上げますと、今後、福井県が進んでいく2つの方向、1つは少子高齢化、まずは高齢化だが、これがどんどん進んでいく中において、高齢者とともに身体障がい者などの身体的弱者に対する配慮というものが、現場でなくてはならない大事なことだと考えている。これは、アテンダントからの報告からも常日頃吸収しているが、駅で乗り降りする際、さらには乗ってからの行動、そういったことにハード面ではとても対処できない。人と人とのソフト面での対応が人間関係の中で、いかに大事であるかと。都市型の交通体系ではなく、地方の中での交通体系に求められるヒューマンライনেরなものが絶対に必要であると考えている。もう1つは、これから新幹線が令和6年度に福井開業となり、いろんな方々がいらっしゃる。そして、福井県にいらっしゃる方々にとっては、未知の新たな観光資源を楽しみにされる。そういった中で、情報として、スマホやSNSでも得られるが、やはり人と人との触れ合い、そしてそこから得られる情報、また情報だけでなく、具体的には乗り継ぎや宿泊、さらにはいろんな景色の説明など、そういったことが求められる。これは、旅の楽しみであり、地方という都会にはない触れ合いを得る楽しみがある。鉄道の立場からは、非常に大事なことであると考えている。えちぜん鉄道は、具体的にはアテンダントが、今その役目を果たしているわけだが、さらにこれを充実させていきたいと考えている。また、さきほど申し上げた高齢化と新たなる未知のお客様に対応するというこの視点はこの協議会でもしっかりと持っていただきたいと考えている。

#### 京福バス

- ・バスの課題としては、利用が減少しており、採算がなかなかとりにくい事業ではあるが、今やっているのは乗車数に合わせて交通手段を変えていくということで、維持をしていくということ。1つは車両の小型化であったり、あるいは、お客さんの多いところはバスであるが、少なくなったところはタクシーに移行していくとか、乗り継ぎをお願いするとか、また、予約制にするとか、利便を考えてその用途にあわせて、スクールバスにしたりコミュニティバスにしたりということで、こちらもご提案させていただきながら、地域の足をしっかり守っていききたいと考えている。あと、私どもの業界で課題となっているのが、乗務員不足の問題があり、地域の足を確保するというのは、今後これを解決していかなければならないと考えている。世の中は、安全のためにゆとりのある働き方、産業のところでは、賃金の水準がだいぶ上げられるような状況となっているが、当社も採用活動をしっかりやっているが、なかなか厳しい状況である。また、郊外では学校の統廃合の話がでており、広域での需要が一方ででてくるということもあるかと思う。そういったところに応えられるよう

に助成をいただくということで、頑張りますし、観光については、今後期待される需要のところを期待して頑張っていく。あと、小さいこととなるかもしれないが、公共交通をご利用いただけていない方に、もっと安心して乗っていただくためには、我々ももっとわかりやすく、利用しやすく、乗りやすくといったところの宣伝が足りないのかな、と考えているので、もっとやっていきたい。乗りなれていない方には、バスを後ろから乗るのか前から乗るのかもわかっていなくて、どきどきしながらバスを乗られる人もおられるでしょうから、降り方もボタンを押すということもご承知にならない方もいると思う。そういったところを承知しながら、安心して乗っていただけるような取り組みも必要かと考えている。観光面については、新幹線が来ると、各駅で相当多くのお客様が降りてこられると思うので、それに対しては、新たな路線や観光地への便利な路線を作っていくとけない。金沢は、それなりに観光のポテンシャルがあるため、福井と金沢を結ぶような高速線なども考えていく必要があるということで、しっかりとした計画を作ってやっていきたいと考えている。観光のところで、我々は地域のお客様を県外へ観光バスでお運びするのが軸だったが、新幹線が来ると、北陸に全国から目が向いてくる、そういった時には、福井をどうアピールするかということで、我々はバスを売るだけではなくて地域の新たな観光資源と一緒に県外にもって行って、ご利用いただくような活動も今後していかなければならないのかな、と少しずつ始めようとしているところである。あと、嶺南と嶺北、金沢の観光地を結ぶのは、やはりバスの役割だと考えているので、そこにも力を入れていきたい。設備面では、M a a Sの話もあったが、交通のI Cキャッシュレス化、これも都市間の観光の競争では置いて行かれることがないように行政の支援をいただきながら、やらせていただきたい。あとは、先ほど言いました通り情報発信力の強化、どんなところにどんな観光地があって、どうやって行くのかというところの発信。広告やホームページなどでの発信、こういったところに取り組んでいきたいと考えている。あと、乗務員のおもてなし接客は我々の務めかと考えている。

#### 福井県バス協会

- ・バス協会は、会員会社が福井県全体にあり、各地域の公共交通会議や各鉄道の利用促進協議会に出席させていただいている。今回、この協議会ができることで、県全体を包括するような計画を作っていくという組織ができるのは非常に良いことだと考えている。ここの考え方を基本に、各地域や各会社の協議会が動いていけば、福井県全体が一つとなって動いていくので、大変良いことだと考える。あと、福井の場合、鉄道だったり、バスであったり、各会社があまり競合しているということがなく、エリア分けされている場合が多く、全体のネットワークは非常に作りやすい環境にあるかと考える。その中でも、バスがタクシーに替わったり、となっていくと各会社の利権がでてくるが、そういったところに囚われずに福井県全体のネットワークを作り上げるために、デマンドであったり、自動運転といったものに積極的に取り入れた福井型の公共交通ネットワークが策定されれば、全国的にも素晴らしいものになると期待している。あと、使いやすい福井型の交通ネットワークというものには、二つポイントがあるかと思うが、1つはキャッシュレス、もう1つは情報の共通化であると考えている。キャッシュレスは各社が考えていると思うが、福井県全体の交通機関が同じシステムでお客さんが利用できるなど、お客さんが意識せずに同じキャッシュレ

システムで利用できる環境が作られれば、いろんなサービス、乗り継ぎサービスであったり、周遊系であったり多様なサービスが提供できるようになるかと思う。もう1つの情報は、ルート検索やダイヤ検索や位置情報検索、そういったものも福井のネットワークにあるすべてを同時に同じ環境の中で検索できること、その2つができれば、非常に良いものとなる。この計画の中でも一緒に考え、検討していただくと良い。あと、最後に、自家用有償とか新しい運送系がでてきているが、鉄道とかバスとかタクシーではなく、緑ナンバーではない違う形態が増えていきますので、運転の方も地域の高齢の方がされるということで安全性の向上や安全教育といったところもこの計画と一緒に考えながら、やっていただくとありがたい。

#### 福井県タクシー協会

- ・タクシーの現況となると、すでに出てきているが、運転手不足というところが非常に心配なところで、労働力の確保というところが非常に課題である。コロナ禍ということで需要の回復の問題もあり、今運転手は一時待機させながら運用しているところである。これが戻ってくるとなると、一時タクシーの収入が70%まで戻ったということであるが、また50%近くまで下がった。上がったたり下がったりとこの繰り返しになるのかな、と暗い話題の中で、新幹線という明るい話題ができたかなと考えている。新幹線開業というところで、新規事業をどう創設していくかというところであって、新しい観光ルートであるとか。コロナにあった動きとなると、自然に出かける人が多いとか、少人数になってきたというところがあり、ここはタクシーの出番なのかと。お客さんのニーズに合わせた設定をいろいろと考えていきたい。各市町さんのデマンドというところで、タクシーを導入していただきありがたい。そのデマンドを観光のところうまく使っていきたいと考えている。今ある生活交通で使っているものを是非観光デマンドにもってあがれないかと考えている。生活交通のデマンドを少し加工して観光のデマンドとしてうまく使えるようにしていけないか。そこにWeb予約とかキャッシュレスなど紐づけしながら進めていくと、非常に生活交通の方も観光交通の方も便利なのかなと考えている。その話がふくいMaaSに向けたふくい嶺北連携中枢都市圏の協議会があり、そこで話ができれば良い。そこを先陣に福井全体に広げられれば良いと考えている。

それが、最終的にMaaSにつながれば一番良い。あと、自家用有償運送だが、観光のものもあるが、基本的にはタクシーが手薄な地域での交通確保をお願いしたい。まずは、安全・安心なタクシーの方にお声がけをいただいてから、地域住民である自家用有償運送というところをお願いしたい。順番を間違えないようお願いしたい。

#### 福井河川国道事務所

- ・中部縦貫道大野油坂道路の事業を推進しているところであり、北陸新幹線の開業効果をさらに高めるには、二次交通の観光地へのアクセス支援ということで、この中部縦貫道ツールとして、是非ご活用いただけたらと考えている。あと、ハード整備の話になるが、駅における乗り換え時の人の導線を、スムーズな導線の確保も必要と考えている。道路事業の関係で交通結節点事業というものもあるので、そのあたり補助メニューを用意しているので、今後整備を必要とされるような駅等についてはご活用いただけたらと考えている。

## 福井県警

- ・皆様から様々な課題をお聞きして、持続可能な公共交通そしてまちづくりに関しては、警察としても大変重要なものという認識である。警察としては、今後とも公共交通の安全と円滑の確保という点で皆様と緊密に連携して対応して参りたいと考えている。

## 福井県老人クラブ連合会

- ・利用者として、2つお話をさせてもらおう。コミュニティバスの利用が少ないという話があったが、私は昨年11月に免許を返納した。老人会の方々も、おうちの方から話を聞くと子供たちが免許返納を勧めてもなかなかしてくれない、という話を聞いたので、率先して私の方から皆さんを勧誘しようと考えて返納した。コミュニティバスをみんなに宣伝しようとして、免許返納によりバスの無料券をもらったので、2か所ほど老人会の人を連れて行くところを探した。そうすると、自家用車であれば10分弱で着くところが、30分以上かかり、30分ほどで着くところが、1時間以上かかる。バスの乗車場をみると、1つの町内で3か所くらい駐車場がある。ただし今、高齢者は、フレイル予防ということで、歩くこと、少し体を鍛えましょうということがある。あと、時間帯が朝も昼も帰る時間もみんな同じに運行している。できれば、10時過ぎの時間帯には、公共機関、いわゆる見学してお食事ができて、実習をして帰ってこられる、そういうところへ行けるコミュニティバスについては、町内では1か所しか停まらないようにするとか、工夫をしていただくと大丈夫かなという気がする。小学校区内、中学校区内で公民館があり、そこで高齢者の行事は進めているが、町内の中で公民館へ来るコミュニティバスがない。高齢者の方はタクシーを利用して、講座を受けに来られる方がいるということで、コミュニティバスについては、考慮の余地があるのかと考えている。それから、本日JRに乗って、福井駅に着いたが、この会議にでるためにバス停を一回りしてみたが、残念ながら何分でつくのかというのが全く分からなかった。時刻表はあるが、次は何番が入ってくるのか、明かりがついて次はこのバスが入ってくるという表示があるとわかりやすい。例えば、この国際交流会館に行きます、博物館へ行きます、養浩館へ行きます、そういう時にそのパンフレットに福井駅から何番のバスを利用して帰ってくると、何分で帰れます、と告知をしてほしい。今までは、車で何分、電車に乗って何分と記載があるが、せっかくバス停がきれいになったので、福井を中心にお話をしているわけですが、是非そういう考慮もしていただきたいと感じた。

## 福井県PTA連合会

- ・我々、PTAは共働き世帯で、子供を産んでから保育園・幼稚園に通う時から、子供の送迎は車で行うというのが、主流な形に福井は特になっている。その中で、小学校に入り、自分たちが徒歩で行き、電車やバスを利用する子供たちはほんの一部である。その間、利用時間が崩れてしまうと、親の送迎という親の手が入ってくる。そして、中学校、高校と進学する都度、必要であればバス、電車を利用する形になっているが、どうしても生活の一部が自家用車という中に子供たちがいる。また、親がそういう世代にあるので、なかなかバスとか電車を利用する機会というのは少なくなっている。でも、こういう公共交通機関というのは、マナーを知る、マナーを教える、社会の仕組みを知る、教えてあげるといい機会と個人

的に考えている。その中で、市町や交通機関のサービスを伺っていて、我々も上手に情報を得ながらそれを活用しながら、子供たちと一緒に、わくわく、どきどきするような体験をしていきたいと感じた。そのためには、もっと親世代が交流しながら、福井の良いところに行き、色んな移動中に見える風景をみんなで話し合いの場で盛り上がって、そういうところで、次につながるものを、子育て世代の声を届けられたら良いと考えている。

#### 福井県観光連盟

・観光というのは、限られた時間の中で目的・行き先を最初から決めて来られているお客さんがいるという中で、その時間をいかに有効に使うかというのが大事だと考えている。実際、事前に行く場所は調べて、検索されて、何に乗って、どこに行こうということは決めて来られると思うので、改札を出た段階でその乗り場にスムーズにいけるといって、まずはサインが必要でないかと考えていて、各駅でサインは出してもらっているが、主要な観光施設については、例えば、例示で悪いのだが、恐竜博物館だったら、出たところに恐竜博物館えち鉄何番などの表示をきっちりしてもらいたいのではないかと考えている。各駅に、近くの主要な観光地への乗り場、何線の何番線といったサインが必要ではないかと考えている。二次交通については、当然周遊ということもあるので、その点からまた次の場所に行くという二次交通の整備は重要と考えているので、この協議会を通じていろいろと情報を得ていきたいと考えているが、現状としては、待ち時間をいかに待合室で有効に使えるとか近隣で食事を楽しむ、お買い物を楽しむという、歩いて気軽にできるものをいかにたくさん作っていくのかが必要ではないかと考えている。今、私共の方で、県の観光情報サイト「ふくいドットコム」というものがあり、県の観光情報のプラットフォームになれたらと考えている。3月に全面リニューアルをしている。旅行者目線で、魅力的なサイトになるようにということで、今回、改修は必要となるが、市町さんの方から直接リアルな情報を入力できるようなシステムを作っている。今までだと、情報をいただいて私共の方で改修していたが、リアルタイムで入力できるようにサイトに改修しているので、連携を取りながら進めていきたいと考えている。また、観光マップというものを、8年ぶりに全面改訂している。順次、送付をさせていただいているので、お客様にお配りいただければと思う。また、不足等あれば連盟の方にお伝えいただければ発送させていただく。

#### 福井工業大学 三寺氏

・大学では、都市デザインやまちづくり講義であるとか、設計演習なども教えている。研究は、公共交通を中心としたまちづくりということで、ドクター時代から一貫してそれをテーマに研究している。あわせて最近では、三国を舞台にしながら展開しているが、観光まちづくりに関するいろんな研究、さきほどサインの話があったが、そういったサインのデザインであるとか、三国駅に設置するサインなんかもまちづくりをベースにしながら作るということをやっている。協議会に関係する仕事としては、これまで越前市の公共交通会議に携わっている。最近では、鯖江市の東口整備に関する会議に関わっている。先ほど西野委員の方から話があったが、正に二次交通の調査であるとか、実践という議論が始まっているところであるが、それぞれの市町が非常に苦しいところとわかっているが、行政区域に留まらない議論を展開してほしい。ここがポイントかなと考えている。この協議会で

のもちろん大事な使命と感じているので、その辺をベースに置きながら、今後、議論の方を深めていきたいと考えている。あと、あわせて、ここにいらっしゃる皆様はエキスパートでいらっしゃるので、非常に大事なことは、交通はすでにインフラとしてあつてつながっているという話があったが、これは物理的につながっているだけであつて、シームレスでより意識としてつながっているというところをいかに見せていくか。これは、もしかしてまちづくりの使命かもしれないが、そういうところもまちづくりと連動させて議論ができればと考えている。というのも俯瞰がすごく大事なので、広域的な視点で細かいところをきちんとチェックしていくというところをできればと考えている。あと、昨年度、坂井市とあわら市で、広域的な観光周遊に関する調査を行った。そこで、見えてきた非常に面白い結果があつて、公共交通を使う人は、実は消費金額が高い。そして、滞在時間も長くなる。といったことが結果としてわかつた。これは福井県内です。そして、コロナ禍という状況だったが、そういった結果が得られたということが裏付けとしてあるので、是非ともこの会議で広域的な観光、そして広域的な交通の在り方というところをまとめることができればと考えている。最後に、1点質問だが、この協議会には公共交通関係の市民団体の方がメンバーに加わっていないように感じるが、福井にはえちぜん鉄道の存続であるとか再生とかそういった今後の在り方を議論しているようなまちづくり団体があるかと思う。例えばこの協議会は難しいということであればワーキングの方に、そういうメンバーに加えていただくということは検討いただければと考えるがいかがか。

#### 事務局

- ・今ほどご提言いただいたが、今回、利用者ということで、老人クラブ連合会の方、PTAの方、観光連盟の方をお願いしているところだが、またご相談させていただきたい。

#### 川本会長

- ・皆さんが、それぞれ動かれているということは、一部分ではあるが、わかつた。課題の共通部分が結構あることもわかつた。情報は、まだ共有できていない部分があるので、この会議で1年以上かけていろいろとやっていくこととなるので、是非その中で皆さんの悩みの部分で、逆にこういうことをやった方が良いのではなどを含めてどんどん提供いただいて、トータルでネットワークを結んで、より良い公共交通の形を新幹線が来的时候に、さっとお迎えができて、県民の方にもよくなったね、と言われるようにできると良いかと考えるので、是非ご協力をお願いしたい。

## 6 閉会